

令和5年度 当初予算の概要

令和5年度予算は、「第6次焼津市総合計画 第2期基本計画」に掲げる施策をより一層効果的・効率的に推進するとともに、「市民の安全・安心」、「将来に向けた投資」、「健全財政の維持」の具現化を図るものとしました。

一般会計と特別会計、企業会計を合わせた予算総額は、前年度当初より56億937万円増加し、1,138億7,647万円となりました(表1)。※端数処理の関係上、合計数値が合わない場合があります。 ※詳しくは市ホームページを確認するか、問い合わせてください。 問合せ 財政課 回626-2142



詳しくはこちら

【表1】当初予算の総額

種別	当初予算額	増減率
一般会計	577億7,600万円	25億2,400万円(4.6%)
特別会計	305億3,470万円	7億6,150万円(2.6%)
企業会計	255億6,577万円	23億2,387万円(10.0%)
合計	1,138億7,647万円	56億937万円(5.2%)

【一般会計】歳入

一般会計の歳入のうち、市税は、給与所得や企業収益の持ち直しによる市民税の増、新築家屋の増による固定資産税の増などを見込み、前年度に比べ7億6,800万円多い200億8,000万円(4.0%増)としました。

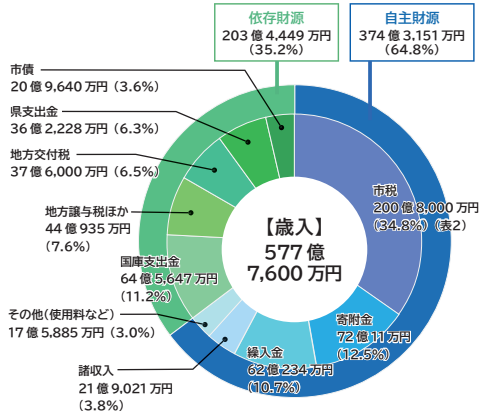
寄附金は、ふるさと寄附金を前年度に比べ6億円多い72億円(9.1%増)と見込みました。

地方交付税は、国の地方財政計画により増額となる見込みから、6億円増の37億6,000万円(19.0%増)を見込み、市債は、前年度に比べ5億6,130万円少ない20億9,640万円(21.1%減)としました。

【表2】市税収入(税目別の内訳)

税目	当初予算額	増減率
市民税	84億474万円	6.3%
個人市民税	74億3,324万円	5.7%
法人市民税	9億7,150万円	11.4%
固定資産税	92億7,934万円	2.8%
軽自動車税	4億1,500万円	▲0.2%
市たばこ税	7億9,800万円	0.0%
醸産税	3万円	—
入湯税	1,500万円	0.0%
都市計画税	11億6,789万円	1.6%
合計	200億8,000万円	4.0%

【一般会計】歳入



【一般会計】歳出

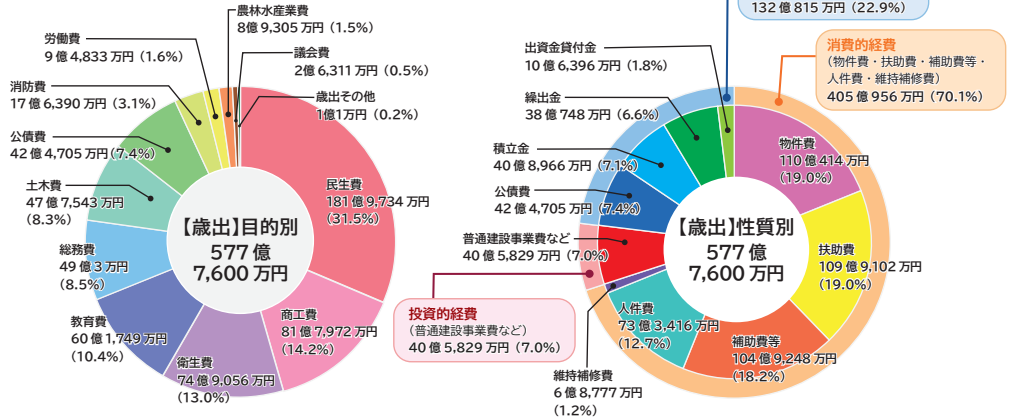
一般会計の歳出のうち、全体で最も多い31.5%を占める民生費は、障害者の社会参加のための訓練等給付費や民間保育所等給付費などの増加により、前年度に比べ4億5,704万円多い181億9,734万円(4.9%増)としました。

商工費は、ふるさと納税関連事業費の増加から、前年度に比べ4億5,804万円多い81億7,972万円(5.9%増)としました。

衛生費は、旧し尿処理施設の解体やクリーンセンター整備に係る分担金の増額などにより、前年度に比べ4億8,385万円多い74億9,056万円(6.9%増)としました。

市の借金の返済に当たる公債費は、前年度に比べ1億6,427万円少ない42億4,705万円(3.7%減)としました。

【一般会計】歳出



【特別会計・企業会計】

「特別会計」とは、特定の事業を行うために一般会計と区別して設ける会計で、8つの特別会計があります(表3)。「企業会計」とは、特定の事業をその事業収入で経営する会計で、3つの企業会計があります(表4)。

【表4】企業会計の内訳

会計名	当初予算額	増減率
水道事業	40億4,673万円	1.4%
病院事業	174億8,681万円	11.6%
公共下水道事業	40億3,223万円	12.7%
合計	255億6,577万円	10.0%

【表3】特別会計の内訳

会計名	当初予算額	増減率
し尿処理事業	4億5,260万円	0.0%
土地取得事業	4億6,680万円	0.7%
国民健康保険事業	133億1,990万円	1.0%
温泉事業	1億6,120万円	32.7%
駐車場事業	950万円	9.2%
介護保険事業	137億7,090万円	4.7%
後期高齢者医療事業	19億7,000万円	▲1.0%
港湾事業	3億8,380万円	▲3.3%
合計	305億3,470万円	2.6%

【ふるさと寄附金】

全国の多くの皆さんに焼津市を選んでいただき、寄附をいただいています。今後も魅力ある焼津市を発信し続け、引き続きご支援をいただけるよう、そして

【表5】ふるさと寄附金を活用する事業

活用事業	活用額
子育て支援	8億5,298万円
交流	15億3,370万円
健康	4億8,344万円
コロナ対策・治水・防災・安全安心	10億8,810万円

て、寄附していただいた皆さんの温かい思いを実現するために、今年度は約39億6千万円を各種事業に活用します(表5)。

新年度のスタートにあたって

焼津市長 中野弘道



新年度のスタートにあたり、私の令和5年度の市政運営に対する基本的な考えを3点申し述べます。

1点目は、「水産文化都市 YAIZU」の実現に向けて、躍進するまちづくりについてであります。

あらゆる事が激変する世の中、本年を「ウイズコロナ元年」として位置づけ、新しい時代の中を前進し、コロナ禍により打撃を受けた産業や地域の人々のつながりを原点に戻すため、総合計画の将来都市像である「やさしさ 愛しさ 愛しき 世界へ広げる 水産文化都市 YAIZU」の実現に向け、躍進するまちづくりに取り組んでまいります。

2点目は、市政運営の目標を表す、今年の漢字についてであります。コロナ禍であらゆることが「進化」する世の中、「デジタル化を更に「推進」するとともに、小さな対話の積み重ね、感染症を乗り越え「前進」、共に支え合い、人と人のぬくもりが感じられる、あなたからまちづくりを進め、更に「躍進」していくために、今年の漢字は「進」にしました。

3点目は、組織横断的な取り組みによる行政運営についてであります。社会経済情勢の変化が速く、予測が難しい中においても、第6次焼津市総合計画第2期基本計画を着実に推進するため、引き続き、焼津プロジェクトチームにより、各分野の専門家にアドバイスをいただきながら、組織横断的な取り組みを重点的かつ積極的に進めてまいります。

次に、令和5年度における4つの重点取り組みと予算における主な施策の概要を申し上げます。

本市の将来のまちづくりを示す、焼津ダイヤモンド構想の考え方を反映させた、第6次焼津市総合計画第2期基本計画は、急速な社会情勢の変化に対応するため、6つの政策と21の施策を掲げており、令和5年度は、引き続き、本計画を着実に推進するため、4つの重点取り組みを力強く進めてまいります。

1つ目の「新型コロナウイルス感染症への対応と新たな日常の推進」では、市民の皆様とともに感染症を乗り切るため、引き続き、国の対応方針に基づき、迅速に対応してまいります。これと共、共に生きる「共生(きょうせい)」や共に創る「共創(きょうそう)」のまちづくりを進めてまいります。これからは、市民・事業者・行政が共に生きる「共生」から共に汗を流し、新たな段階を目指す「共生(ともみ)」という新しい考えの下、産業や市民生活を新たな段階にしていくため、社会経済活動、地域活動への取り組みを力強く推進してまいります。

2つ目の「デジタルの力を活用した社会課題解決への取り組み」では、焼津市DX推進計画において、「デジタルによる、豊かで快適な新しい暮らしの実現」を掲げ、本市のスマートシティの取り組みを強力に推進させるとともに、行政や地域のDXを更に加速させるための体制整備を進めてまいります。

また、「書かない市役所」、「行かない市役所」を実現するため、これまで各種申請や公共施設予約などに、オンライン手続きを導入してまいりましたが、本年は、更なるデジタル化によるサービスの充実にも努めてまいります。

3つ目の「人口減少・少子高齢化対策」では、第2期焼津市子ども・子育て支援事業計画において、「育てよう!明るい笑顔のやいづっ子」を掲げ、引き続き、結婚・妊娠から子育てまでの切れ目のない支援や幼児教育・保育など、全国トップクラスの充実した施策を更に進化させてまいります。

また、人口減少対策として、企業本社などの地方移転や新しい働き方の浸透などの潮流をふまえ、移住・定住の促進及び交流・関係人口の増加を図るため、焼津へ「呼び込む」をキーワードに、企業誘致、移住・定住者への支援を戦略的に進めてまいります。

4つ目の「脱炭素社会の実現に向けたスタートアップ」では、地域のごみ減量と分別収集等を推進するための体制整備や環境負荷の軽減、自然環境の保全に向けた取り組みを進めてまいります。

また、2050年までに二酸化炭素排出量の実質ゼロを目指すゼロカーボンシティの実現に向け、新たに公共施設や地域の省エネルギー化に向けた取り組みを推進するとともに、市民の皆様や事業者の皆様と協同して歩を進めてまいります。市民の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。